

私は大学に入学した当初からアメリカへ留学したいと強く望んでいました。そのことについて両親と相談したところ、勉強してたくさん英語を学んでほしいといわれ、両親も留学することについて快く承諾してくれました。今思い返してみると、両親には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

アメリカへ留学するにあたりパスポートをとったり、荷造りをしたり、書類を作成したりとやらなければならないことがたくさんありました。この準備期間は、めんどくさがりな自分にとってはかなり辛いものでした。特に私が一番苦労したものがビザ申請の際の書類作成です。どの種類のビザを申請すればよいのか、どこに何を入力すればよいのか、そういったことがあまり把握できずかなり苦労した思い出があります。しかし一緒に留学へ行く友達や先生方、学務課の方々の助けによって何とか無事にビザを取得することが出来ました。また、この準備期間で私をもっと力を注ぐべきだったと後悔していることがあります。それは英語学習です。行く直前に何とか英検二級を取得することは出来ましたが、リスニングとスピーキングはかなり苦手だったので、もっと勉強するべきだったなと今になって後悔しています。

出発当日は朝早くに起きて、新潟駅へと向かいました。そこから東京駅へ行き、成田空港へバスを乗り継いで向かいました。成田空港から飛行機に乗ってアメリカへと出発しましたが、フライト時間がとても長く、大学に着いた頃には皆疲労が溜まっていました。

アメリカでの留学生活は違う文化を学ぶ楽しさや楽しいイベントなどがあると同時に、苦労したことや大変だったことも多くありました。特に一番苦労したことは現地の人とのコミュニケーションです。私が大学の生徒や先生方に道を尋ねたとき、皆さんとても親切に教えてくれようとしているのですが、早すぎて何を言っているのか聞き取れなかったり、全然理解出来なかったりしたのでとても申し訳ない気持ちに何度かありました。また、大学の学食は油っこいものや味の濃いものが多く、日本食が恋しくなるといった場面が何度かありました。しかし、一旦慣れるとそこまで辛いと感じることはなくなり、逆に毎日の食事が楽しみになりました。

私のルームメイトはアレックスというアメリカ人の生徒でした。当初は、生まれて初めて部屋を共にする外国人の方というだけあって、不安と緊張で大変でした。もし自分のせいで相手を不快な気持ちにさせてしまったらどうしようとずっと思っていました。しかし、彼はとても優しい性格でいつも私のことを気に掛けてくれました。部屋に一緒にいるときは「暑くないか」「寒くないか」と私に聞いて部屋の温度を調節してくれたり、「風邪を引かないように温かくするんだぞ」と声をかけてくれたりしました。また自分が部屋に持ってきた道具を快く使わせてくれたりと本当に親切な方でした。

大学での授業が始まってすぐにプレースメントテストを行いました。このテストの出来具合でクラスが二つに分けられます。私は A クラスに配置され、B クラスよりもより発展した内容の授業を受けることになりました。時間割は午前中にリーディングの授業が毎日二時間ずつ、午後からはグラマーとリスニング/スピーキングの授業が一日おきに二時間ず

つありました。それに加えて TOEIC の授業とアメリカの文化を学ぶ授業が一日おきに一時
間ずつありました。一見簡単そうに見える時間割でしたが、授業内容はとても難しく、つ
いていくのがやっとなりました。授業においては生徒一人一人が積極的に発言し、授業に参加
することが求められます。最初の頃はあまり発言することが出来ませんでした。授業に
慣れていくにつれて自然と発言できるようになりました。またほぼ毎日宿題や課題の提出
が求められ、最初の頃はとても苦労した思い出があります。その中でも特に私が一番辛か
ったと感じたものは **Article report** という課題です。この課題は先生が毎回吟味して選んで
くる新聞の記事を読んで要約し、自分の意見や感想を書くといったものです。一週間に一
回必ず提出することが求められ、いつも週末になると頭を抱えていました。クラスには日
本人の生徒の他にも中国人、韓国人、ブラジル人、サウジアラビア人の生徒がいました。
最初の頃は、彼らとの会話があまり上手くいかなかったり、自分の思っていることを上手
く伝えられなかったりしたのでとても悔しい思いをしました。しかし、日常生活や普段の
授業を共に過ごしていくにつれて、徐々に彼らとのコミュニケーションが上手くいくよう
になり、冗談を言い合える仲にまでなりました。

プログラムの中にはアメリカ人の生徒と一時間会話をするというものがありました。こ
のときペアになってくれるアメリカ人の生徒をカンバセーションパートナーといいます。
私はショーンという生徒に担当してもらい、文化の違いや趣味、好きな女性のタイプなど
様々なことについて話し合いました。ショーンは私が聞き取りやすいようにゆっくりと喋
ってくれたり、出来るだけ簡単な単語を使ったりとかなり工夫して会話をしてくれました。
そのおかげで充実した楽しい一時間を過ごすことが出来ました。

授業の一環として遠足に行くことも時々ありました。**Omaha zoo** という動物園に行きま
したが、その動物園は日本と比べて規模がとても大きく、爬虫類や昆虫がいる施設、また
水族館などもありました。動物の種類も非常に豊富で、初めて見る実物の動物も数多くい
ました。動物を紹介している説明文や掲示板などはもちろん全て英語なので、そういった
ものを読むのも英語能力を上げるうえでとても貴重な経験だったと思います。

大学内ではほぼ毎週様々なイベントが行われていました。私たちは放課後や休日などに
いろいろなイベントに参加して楽しいひと時を過ごしました。バスケットやアメリカンフット
ボールなどのスポーツ観戦、映画鑑賞、またはお化け屋敷などのイベントもありました。
特にアメリカンフットボールは今まで漫画やテレビなどで見たことはありましたが、実際
の試合は観たことはなかったのでとても迫力のあるスポーツだなと実感することが出来ま
した。アメリカンフットボールは日本ではあまり人気の少ないスポーツなのであまり見か
けることが少ないと思います。なので留学へ行った際は是非観戦することをお勧めします。
そのうえ、我々の大学のアメフトチームであるベアキャットは他の大学と比べてもとて
も強く、毎回その迫力あるプレーに圧倒されていました。また、冬の期間になるとバスケット
ボールの試合が行なわれるようになります。私は小学校・中学校・高校とバスケットボ
ール部に所属していたので、留学へ行く前から本場のバスケットボールの試合を観ること

をととても楽しみにしていました。いざ試合を観に行くと、どの選手も身長が高く、とても驚きました。また同じ大学生とは思えないほどスピードやテクニックが卓越していたので、やはり本場で観るバスケの試合は違うなと実感しました。バスケットボールやアメリカンフットボール、バレーなどの全ての試合に共通していえることとして、観客の皆さんがとても熱狂的でした。特にアメリカンフットボールの試合では、ほぼ全ての観客がチームの服を着て応援していました。

留学生を対象としたショッピングツアーにも参加しました。バスに二時間ほど乗ってカンザスシティまで行き、アウトレットやショッピングモールで買い物を楽しみました。日本のショッピングモールと比べて、ナイキなどのスポーツ用品店が多かった印象があります。また GAP や American Eagle などの日本でもよく見かけるショップもありました。日本では売っていないような商品を購入出来たので、とても有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。昼食はフードコートの日本食を取り扱っているお店で食べました。私は炒飯にテリヤキソースをかけたものを注文しました。完璧な日本食とは言えませんでした、とても美味しかったです。

アメリカの大きな行事である Homecoming や Halloween 、 Thanks giving などにも参加しました。Homecoming とは年に一回卒業生たちを母校に招き、パレードなどの各種イベントを楽しむといったものです。この大学では朝から学校の敷地内で大きなパレードが行われました。マーチングバンドやアニメのキャラクターに扮した人々が学校の敷地内を行進し、見ている人々を楽しませていました。とても面白いイベントでした。Halloween では多くの人々が仮装します。私たちは先生に引率されてすぐ近くの町まで行きました。そこでは多くの子供たちが仮装し、お菓子をもらうために出歩いていました。私たちの寮にも何人かの子供たちが来てくれたので、お菓子をあげました。とても可愛い衣装を着ていました。また学食の飾りつけも Halloween 仕様になっており、Halloween 限定のメニューなどもありました。どくろをかたどった料理などとてもユニークな料理が沢山ありました。Thanks giving ではホストファミリーの方のお家に五日間ホームステイさせていただきました。私はスロームさん一家に招かれて Thanks giving の間お世話になりました。Thanks giving の間はスロームさん一家と共にいろんな場所は連れて行ってもらいました。クリスマスツリーの木を伐りに行ったり、ショッピングへ出かけたり、イルミネーションを見に行ったりもしました。動物やサンタクロースをモチーフにしたイルミネーションが沢山あってとても綺麗でした。また Thanks giving 中はスロームさんの親戚の方々も多く来ました。彼らと一緒に卓球をしたり、スプーンというトランプとスプーンを用いたゲームで遊んだり、とても楽しい時間を過ごしました。お昼には親戚の方々も一緒になって、パンプキンパイ、チェリーパイ、ハム、マッシュポテト、ターキーといったとても豪華なご馳走をいただきました。特にターキーは生まれて初めて口にすることが出来たので、良い経験になりました。

留学に行く前は、色々な楽しいことが待っていて、夢のような四か月間を過ごすことが

出来るんだろうなと思っていました。しかしいざ留学生活がスタートすると、課題や宿題に毎日追われ、周りの人々の話している英語が全然聞こえなかったりと辛いことや苦しいこともありました。ですがそれ以上に自分の英語能力はもちろん、精神面においても留学に行く前と比べて格段に成長することが出来ました。この素晴らしい留学の経験を決して無駄にはせず、意識を高く持ってこれからの生活を過ごしていきたいです。

最後になりますが、留学に行く前に様々なことでサポートしてくれた先生方、留学先で生活を共にし一生懸命勉強に励んだ友人、そして金銭面で助けてくれた両親に感謝します。今思い返せば自分は本当に恵まれていたということを実感出来ます。本当に有り難うございました。

